

けい酸加里入り一発肥料による省力良質米生産事例(栃木県)

究極の省力施肥で良質米をとろう。この目的で栃木県で開発された肥料が、いま急速に普及を始めた「ひとふりくんプレミアム」です。

これは米づくりの中で、ややもすれば土づくり肥料施用がおろそかにされやすくなるため、土づくり肥料とこれまでの一発肥料「ひとふりくん」を一緒にして作られた肥料です。

こうすることで稲作施肥は文字通り一回でOKという、これからの農家の希望にそえる超省力型の肥料となりました。これには原料として「けい酸加里」も使われています。



ひとふりくんプレミアム収量・品質調査結果

この肥料を使ってみた展示圃成績が、このほど「平成15年度ひとふりくんプレミアム収量・品質調査結果」としてJA全農とちぎでまとめられました。

地区	使用タイプ	施用量 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	屑米	千粒重	食味値 食味計	蛋白質 ケットAN800
大田原市	プレミアム1号	80	468	33	21.2	76	5.8
小川町	プレミアム2号	60	491	47	20.2	71	6.5
矢板市	プレミアム1号	80	470	28	20.8	76	6.3
高根沢町	プレミアム1号	80	498	30	19.6	71	6.6
塩谷町	プレミアム1号	80	486	37	21.6	72	6.6
喜連川町	プレミアム1号	80	477	22	19.4	73	6.2
鹿沼市	プレミアム1号	60	529	22	20.7	74	6.0
鹿沼市	プレミアム1号	80	408	32	18.4	70	6.4
河内町	プレミアム1号	80	450	15	20.3	71	6.5
上三川町	プレミアム2号	80	527	27	20.5	72	6.1
芳賀町	プレミアム2号	80	450	48	20.0	72	6.4
小山市	プレミアム2号	60	471	34	19.6	72	6.9
平均値			478	31	20.1	72	6.4

この結果のように、10a当たりの収量はおよそ480kg前後となっており、冷夏といもち病の発生による不作の年としては、まずまずの収量となりました。

千粒重については平均値で20.1gと平年に比べると1割位低めの数値となりましたが、これはやはり冷夏の影響が大きかったようです。

しかし全農とちぎの小川技術参与が「収量は抑え目にして、品質が良くなることに重点をおいた」と言っていたように、食味値の平均72、蛋白含有量の平均6.4%となっています。

特に食味値の構成要素で重要視される蛋白含有量が、平均で6.4%と少なく優れた結果になったことについて、JA全農とちぎでは「あらためてプレミアムが良食味米生産に有効であることが裏付けられた」としています。